

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	わんぱく企画有限会社
公演団体名	わんぱく寄席(小学校の場合)・学校寄席(中学校の場合)

内容

1 限目『寄席（落語）ってなんだろう？』 …はじめて落語に触れる児童生徒のために、落語について実演を交えながら解説します。落語について理解を深めていただいたあと実際に落語を2本聞きます。（別ページ参照）

2 限目『わくわく寄席（落語）教室』…1 限目で聞いた落語『寿限無』『平林』についてみんなで話し合ったり、実際に声に出してみたりして理解を深めて行きます。その後、落語を発表するグループ、一番太鼓や寄席囃子の太鼓をたたくグループ、寄席囃子にあわせてリコーダーを演奏するグループに分かれて本公演の発表にむけて練習します。（別ページ参照）

1限目

寄席(落語)ってなんだろう?…45分～60分

全員参加

全員参加が難しい場合は、
学年参加でも大丈夫です

会場へ入るみなさまを一番太鼓でお出迎え



落語のみかた
たのしい解説で
落語の世界をご紹介します



落語が生まれたのはいつ?
落語家って何人くらいいるの?
芸名はどのようにつけられるか?
寄席文字の意味、座布団にかくされたひみつ
などなど落語の特徴などをご説明いたします。
そのあと、簡単な小噺をいたします。
その時どのようにお話ししているか
じっくりと観察してみてください。



邦楽のダイジェスト版?
この出囃子は誰のかな

寄席(下座) 音楽の解説

落語家が登場するときに流れる音楽を出囃子といいます。
おはやしさんが弾く三味線に合わせて、太鼓、しめ太鼓、鉦など
にぎやかに演奏します。有名な落語家さんの出囃子はどんな曲かな?
また、太鼓のたたき音で水の流れや雪が降っている様子など
自然の情景を表します。



上下の使い方
一人で何役も表現する落語
その表現の方法は?

落語は一人で何役も演じます。右を向いて一人の人物を演じ、
左をむいて別の人物を演じ分けます。
客席からみて舞台の右を上手(かみて)、左を下手(しもて)と呼びます。
そのことから、この方法を「上下(かみしも)をきる」といいます。
年齢や身分が高い人を演じる時は下手側を向き、年齢が下の人は
上手側を向いて話します。





てぬぐいと扇子は
どうやってつかうの？
しぐさってなあに？

落語でつかう道具は
てぬぐいと扇子だけ。
その二つの道具を
つかって、いろいろな
しぐさをご紹介します。
聴いている人の想像力
をふくらませます。

てぬぐいを
つかって…



手紙を読む

扇子を
つかって…

なになに
拝啓お元気ですか？



電話をかける

刀の長さを
目線の動きで
表現



はっ



んん？



んんん？



なんて長い刀なんだ



一日落語家入門
めざせあしたの名人！
落語の修行体験？

落語家は師匠に弟子入りして
師匠の身の回りのお世話などをする前座修業を
します。
その修行時代に礼儀作法から
相手への気配りや師匠の身の回りの世話など、
いろいろなことを教わります。
ここでは、みなさんも前座修行で
教わる基本的な礼儀作法を体験して
いただきます。



おじぎする時は、手で三角を
作って、その中に鼻を
入れるようにするんだよ



児童、生徒数名舞台上に上がって、
小噺や仕草をやってみよう！

落語の解説をすべて聞いて頂いたあと、
代表の児童生徒数名が実際に高座（舞台）
に上がって披露！



落語の解説で聞いたことを
踏まえて落語を楽しもう！
落語を楽しもう！



1. 演目『寿限無（じゅげむ）』

2. 演目『平林（ひらばやし）』

2 限目の『わくわくらくご教室』の
題材となる演目を 2 席お話します。
参加学年以外の子どもたちは
落語を楽しみ、2 限目に参加する
学年は仕草などを注意深く観察
しながらご覧下さい。

寿限無（じゅげむ）

あらすじ

あるお家に男の子が生まれ、長生きする立派な名前をつけてもらおうと、お寺に行って和尚さんに相談すると「寿限無」「ごこうのすり切れ」「海砂利水魚」などなど縁起の良い名前を出してもらい、父親はその名前をすべてつなげてしまったからさあ大変。

平林（ひらばやし）

あらすじ

丁稚の定吉がお医者様の「平林」さんへ手紙を届けるために、教えてもらった読み方を忘れないようにつぶやきながら歩いて行くが途中で忘れてしまいます。

そこで通りがかった人に「平林」の読み方を訪ねますが、
「たいらばやし」

「ひらりん」

「一八十の木木（いちちじゅうのもくもく）」

「一つと八つで十木木（ひとつとやっつでとっきっき）」

と平林のさまざまな読み方を教えてもらい、そのよみかたをつなげて言っていくという内容の落語です。



最後にみんなで
寄席踊り
かっぱれを踊ろう



みんなで賑やかに
「かっぱれ」を踊ろう

落語を聞いた後みんなで
寄席の総おどり「かっぱれ」を
賑やかに踊ってお開き！



寄席踊りとは

寄席で落語の一席の後に余芸として踊られていた高座での踊りを先代の八代目助六師匠が寄席踊りとして一つにまとめました。

そして、現九代目助六師匠が新たな演出を加え、見て楽しめる作品に仕上げました。

かっぱれとは

かっぱれは大阪・住吉大社の住吉踊り（重要無形文化財指定）に端を発し、江戸は浅草三社様の境内で大道芸として踊られていたものです。

落語では、三代目古今亭志ん朝師匠が寄席芸として復活させました。

感染症などの予防や授業の関係などで割愛することも可能です

らくごで
ことはあそび

2限目 わくわく寄席(落語) 教室…45分

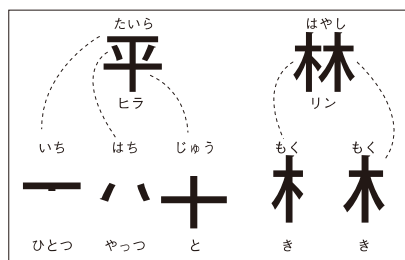
クラス単位・学年単位参加

1 限目で聞いた落語『寿限無』『平林』について、
みんなで話し合ったり実際にやってみよう！



その1 おもしろいと思ったところを話し合おう！

平林は漢字の読み仮名の違いや、漢字を分解して読んだりと文字の面白さが題材となっています。その解説や寿限無のおもしろかったところなどを話し合ってみよう。



平林の漢字を分解すると……



その2 実際に声に出して言ってみよう！

「寿限無」「平林」の簡単な文章を、
落語家さんの後につづいて声に出して言ってみよう！

テキストを
お渡します



その3 寄席の太鼓をたたいてみよう

お客様を呼び込む一番太鼓、休憩をしらせる仲入りの太鼓、
終演後に流れる追い出し太鼓などだけでなく、
出囃子の時にも三味線にあわせて太鼓を打ち鳴らします。
順番に太鼓をたたいて、その中から代表生徒が本公演で
発表します。



出囃子にあわせて太鼓をたたく練習



ドンドンどんとこーいと多くのお客様
が入るように勢いよく太鼓を叩きます

それぞれグループに分かれて
本公演の発表にむけて練習しよう！

練習 1



落語『寿限無』『平林』発表練習

落語『寿限無』と『平林』の練習を行います。
落語家が上下（かみしも）の使い方、しぐさなどを直接指導します。
その中から代表の児童生徒が本公演で『寿限無』『平林』を発表します。

※一人で全部発表することが難しい場合は、一つの演目を数人でリレー方式で発表することも可能です。



目線と上下の位置を指導しています
右を向いて左を向いて一人で何人もの登場人物を演じ分けます



本来は口伝で教える落語ですが、
わかりやすいようにテキストをお渡しします



落語家の表情を見ながら練習するため、
感染症対策としてアクリル板の仕切りを
たてて仕切り越しに指導します。

練習 2

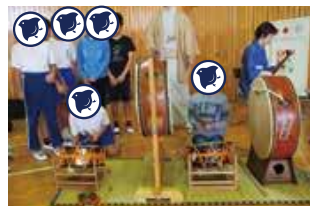


一番太鼓、出囃子、笛の練習

一番太鼓組……本公演の開場とともに流れる
一番太鼓を数名の児童生徒が
交互に打ち鳴らします。

出囃子組 ……落語発表の児童の出囃子に
あわせて、太鼓、鉦を演奏。

笛 組 ……鳴物の笛の代わりに普段児童
生徒が使用しているリコーダー
で出囃子にあわせて演奏。



大太鼓と締太鼓を使って出囃子にあわせて
叩く練習をします。



学校の好きな曲を出囃子にしてそれに
あわせてリコーダーを吹きます。

練習 3



寄席踊り「かっぽれ」の練習



ねじり鉢巻きを巻いて、小気味の良い
音楽にあわせて歌いながらみんなで
踊ります。

本公演で児童の落語発表の後に
代表児童が舞台の前で踊ります。

※授業の関係上演がむずかしい場合は割愛することも
可能です。

本公演で共演する落語披露と
一番太鼓・追い出し太鼓披露の代表児童が

本番までに 用意するものなど



亭号と名前をかंगाえてオリジナルめくりを作成

本番で発表するときまでに「〇〇亭花丸」などの
自分の落語家としての名前を考えて、オリジナルのめくりを作成します。
(作り方などの資料をお渡しいたします、ワークショップの時にご説明いたします)



着物を着て舞台へ

落語を発表する代表者には着物を着て登場してもらいます。
最後に着物のたたみ方をお教えします。
実際に浴衣を着る機会に活用していただけます。
※ご希望の場合着付け教室を開催することも可能です。



タイムスケジュール（標準）					
ワークショップが 10:00 の場合					
到着	仕込み	1 限目	内休憩	2 限目	退出
8:00	8:00～10:00	10:00～11:00	15 分	11:15-12:00	13:00

派遣者数
講師 6 名

学校における事前指導
落語のセリフのテキストと一番太鼓のたたき方の DVD をワークショップの前にお渡しします。 ワークショップで実際に師匠に教わった後に、本公演まで練習をお願い致します

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業一巡回公演事業一

本公演実施計画書

制作団体名	わんぱく企画有限会社
公演団体名	わんぱく寄席(小学校の場合)・学校寄席(中学校の場合)

演目

一番太鼓でお出迎え……代表児童生徒

- 1, 開口一番
- 2, 落語
- 3, 色物
- 4, 代表児童・生徒による落語発表会

お仲入り（休憩）

- 5, 色物
- 6, 落語

追い出し太鼓でお開き

■ ■ ■ ■ ■ わんぱく寄席・学校寄席 ■ ■ ■ ■ ■
はじまりはじまり！

発表

児童・生徒代表が披露する

一番太鼓

「どんどんどんとこーい」開場とともに
賑やかにみなさんをお出迎えいたします。



落語

開口一番
若手落語家



柳亭市若 ほか

はじめは、元気いっぱいの
若手落語家による落語。
わかりやすく楽しい演目を
お話し致します。

※演目は当日子どもたちの様子を見て
その場で決めます。
なんのおはなしになるのかお楽しみに！

色物

目で見て楽しい
技の数々



太神楽曲芸 など

鏡味仙志郎 ほか

傘の上に毬や升をのせて
勢いよく回したり、顎の上に
台茶碗を立て、その上に板や、
茶碗を積み上げて行く芸など
ハラハラドキドキします。

ほかに、紙切り、奇術（手品）
などがあります。

他にも楽しい色物が
わんぱく寄席・学校寄席を
彩ります



落語

中トリをつとめる
実力派の師匠



古今亭志ん丸 ほか

わんぱく寄席、学校寄席に
数多く出演していただいている
子どもたち目線で話のできる
実力派の師匠。
どんな話がとびだすか
乞うご期待！

※出演者はあくまでも例です



代表児童・生徒による 落語発表会



落語発表 児童生徒 2 名

ワークショップで練習した
「寿限無」「平林」などの落語を
実際の舞台上で披露します

子どもたちがワークショップで落語家から
直接口伝いでセリフなどを教わりながら、
手ぬぐいや扇子をつかって、登場人物を
演じ分ける技術を習得し、その成果を披
露します。



鳴物発表 児童数名

落語発表の児童が舞台上で登場
する時の出囃子（登場曲）を
演奏します。

太鼓、鉦（与助）に加えて、学校で使用
しているリコーダーを笛の代わりにして
出囃子を演奏し、みんなで一つの寄席を
作り上げます。



かっぽれ発表 全員参加

全員で「かっぽれ」を総踊り。
全員が楽しく踊って自然と
笑みがこぼれます。

授業の関係で難しい場合は、割愛することも
可能です。



お仲入り（休憩 10 分）

色物 いろもの

ベテラン
演者による
珠玉の芸



はやし や しょう らく
林家正楽 など

芸を極めたベテラン演者の
珠玉の芸をお楽しみいただきます。
紙切り芸はお客様のご要望に
応えて紙にはさみをいれて
形作っていきます。
ほかに奇術、漫才、太神楽曲芸
江戸曲独楽など。

落語 らくご

待ってました！
大トリ真打！



いり ふね てい せん ゆう
入船亭扇遊 ほか

わんぱく寄席・学校寄席のトリを
かざるのは、前座の時代から現在
まで学校公演を重ねてきた経験豊
富な出演者。
巧みな話術で子どもたちを落語の
楽しい世界へ誘います。

追い出し太鼓 (ご希望の場合は児童生徒がたたくことも可能です)

「出てけ出てけ」というリズムで追い出し太鼓が流れ、楽しかった寄席もお開きの時間。
ありがとうございましたという気持ちを込めて。

いままで演じられた
ネタの一部

この中から当日
児童・生徒の雰囲気を選びます

動物園
たぬき

ぞろぞろ

天狗裁き

道具屋

みそ豆

長屋の花見

犬の目

金明竹

饅頭ぞわい

元犬

狸の札

お菊の皿

田能久

やかん

つる

桃太郎

目黒のさんま

転失気

子ほめ

初天神

時うどん

時そば

半ほめ

たぬき

古典落語には、江戸時代の人々の生活が生き生きと描かれています。長屋の大家さん、
ご隠居さん、八つあん、熊さん、女将さんに与太郎さん。落語の登場人物は、おっち
よこちよいけど憎めない、愛すべき人間たちが多く登場します。江戸時代の人
のおおらかさ、人情が笑いと共に描かれています。児童生徒さんには、落語の笑いを通
して、人と人とのコミュニケーションの取り方、思いやりなどを自然と身につけても
らいたいと思います。

派遣者数	
出 演 者：	7～8 名 (出演者の色物が漫才の場合 8 名)
ス タ ッ フ：	5 名 合 計： 12～13 名

タイムスケジュール（標準）					
到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
8:20	8:30～11:00	13:30～15:10	10 分	15:10-17:00	17:00

実施校への協力依頼人員
とくにありません

演目解説
「わんぱく寄席」「学校寄席」は、日本の話芸である落語を中心とした寄席芸を、正しく鑑賞し、楽しみながら理解を深めていただくために行われています。楽しい笑いの中から日本語の話し方の技術を学び、言葉のおもしろさを把握していただくという、あくまでも文化的・教育的立場を重視しております。 心の底から飛び出す笑い声と笑顔 「生まれて初めて笑いました」 「(今日の落語を見ることができて) 僕が生きていてよかったな～と思いました」 子どもたちからこういった感想をいただきます。 今の子どもたちは忙しくて、我を忘れて心の底から笑うことが少なくなっています。 落語を聞いて、友達と笑い、家に帰って家族に話してみんなで笑顔になっていただくために落語を学校にお届けしております。 聞く力・話す力・想像する力を伸ばす 子どもたちは頭の中で登場人物を想像させながら落語を聞いていきます。子どもたちが想像する人物や情景は、一人一人が違います。それが落語の面白さです。中には、本当に話の世界の中に入ってしまって、登場人物と思わず会話してしまうという児童もいらっしゃいました。 笑い話だけでない落語のもつ力 落語には、「生き方」や「命」を考えるテーマがたくさんあります。子どもたちが今すぐに汲み取れなくても、将来大人になった時に、「ああ、あの時聞いた噺はこのことを言っていたんだ」「こういう意味だったんだ」と気づいてもらうことが望みです。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

本公演共演ワークショップの意図

本来落語は一人で演じるものですが、今回の共演ワークショップでは、児童生徒に登場人物の役柄を振り分け、それぞれが役柄を演じてもらうことで、あらためて一人で何役も演じ分けることのできる落語のすごさを感じてもらいます。

寿限無寿限無……を全児童で合唱することは、普段の落語の概念をこえておりますが、このわんぱく寄席ならではの出来る事柄として捉えていただきたい。概念をくつがえすことで子どもたちに親しみやすくそれが将来のお客様に受け入れられる要素になると思います。

児童生徒とのふれあい

話し方のコツをつかみ、聞き手へ伝える表現力が身に付く

落語には、「小噺」「ことばあそび」「しゃれ」など日本語のことばを学べる要素がふんだんに盛り込まれています。

「間」の取り方、上下(かみしも)をつける話し方、しぐさなど、聞き手にわかるようにする「伝える力」「表現する力」、言葉にリズムをつけて話す「音楽性」などの技術がつまっています。

楽しみながら日本語を学べるというメリットがあります。

ワークショップでは、実際に落語家の師匠から落語を口伝いで教わったり、お囃子(三味線)にあわせて太鼓や、リコーダーと一緒に演奏したりして、児童生徒と演者が協力して舞台を作ります。

落語には学習指導要領にある「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「伝統的言語文化と国語の特質に関する事項」が含まれています。

聞く人に豊かな情景を思い描いてもらうための表現力も重要になります。落語家の高度な話し方の技術を学び、「話す力」「表現する力」を育んでもらい、スピーチをするときに役立てたり、他者へ気持ちをうまく伝えてコミュニケーションをとることに応用してもらいたい。この技術は、先生が子どもたちに物事を伝える時の参考にもなります。